

## 第2学年東組 国語科学習指導案

### 「声や動きで表そう ～『名前を見てちょうだい』～」

学習指導者 東 泰右

#### 1 学習指導要領に示された本单元にかかわる目標及び内容等

##### 1 第1学年及び第2学年の目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

##### 2 第1学年及び第2学年の内容

###### 1 [知識及び技能]

- (1) イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。

㉔ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

###### 2 [思考力、判断力、表現力等]

###### ㉔ 読むこと

- (1) イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。

㉕ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。

オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。

- (2) イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

#### 2 メタ認知・教科に関する子供(35名)の実態

課題設定以前…授業の始めに、これまでに学習したことや、今日学習したいことは何かを考えている子供はあまり多くない。

課題解決中……ペアやグループでの話し合いに積極的に取り組んだり、その際に自分の考えと比べながら聞いたりする子供が多い。

課題解決後……授業の終わりに、今日学んだことを確認したり、次の時間に行きたいことを考えたりする子供は多い。

### 3 目指す子供の姿

#### 【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

『名前を見てちょうだい』を音読劇で表現するために、言葉による見方・考え方を働かせ、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。そして、想像したことについて友達と話し合うことでより具体的なものにし、音読劇に生かしている。

本単元では、登場人物の行動について具体的に想像したことを生かして、『名前を見てちょうだい』を声や動きで表す音読劇にし、日頃からペア学年として交流している1年生に向けて発表することを言語活動として設定する。まず、子供たちは、言葉の意味、働き、使い方等に着目し、「表情・口調・様子・気持ち」といった観点を手掛かりにしながら、叙述を基に、登場人物の行動を具体的に想像する。そして、想像したことについて友達と話し合う際には、『あたしのぼうしをかえなさい』の『かえなさい』は、人に命令する時に使う言葉だから、ここは、命令するみたいに強い言い方をしていたと思うよ。お母さんに貰った大切な帽子だから、絶対に取り返したかったんだよ」「同じところで、この時のえっちゃんはとても怖い顔をしていたんじゃないかな。その後の文で、大男が『ぶるっと みぶるい』しているということは、それぐらいえっちゃんが怖い顔で怒っていたと思うからだよ』のように、一つの叙述から様々な行動を想像したり、自分ではあまり意識していなかった叙述や観点から登場人物の行動を想像したりして、登場人物の行動をより具体的なものにしていく。さらに、グループや全体での話し合いを通してより具体的に想像できたことを音読劇の台本に加筆していくことで、登場人物の行動について想像が広がったことを感じた子供たちは、単元のゴールである音読劇の発表に向けて、想像したことを音読や動作に生かしながら意欲的に学習に取り組んでいくであろう。

#### 4 単元計画（総時数 12時間）

単元の導入で行った試しの音読劇を動画で撮影しておき、全員で見る場を設ける。そして、物語の様子がよく伝わる音読劇にするためにはどうすればよいかを考えていく。第二次では、毎時間、登場人物の行動について具体的に想像したことを声や動きで表現し、教師や友達から認められる場を設定する。そうすることで、具体的に想像したことが音読劇の上達につながることを実感し、意欲的に学習に取り組んでいくであろう。

次	学習の流れ	働きかけ
一	<p>①② 『名前を見てちょうだい』の学習計画を立てよう</p> <p>『名前を見てちょうだい』を読み、お試し音読劇を行う。物語の内容を知らない1年生にも物語の様子がよく伝わる音読劇にするためには何が必要かを考え、登場人物の行動について具体的に想像したことを声や動きで表現するという学習計画を立てる。</p>	<p>前③～⑩【計画見てちょうだいボード】</p> <p>学習計画とこれまでの学びを想起させる掲示物を補助黒板に位置付け、授業の最初に指示することで、単元のゴールを確認し、課題設定の妥当性を感じられるようにする。</p>
二	<p>③～⑧ 登場人物の様子を想像しながら読もう (本時8/12)</p> <p>場面ごとに、登場人物の行動を具体的に想像する。そして、想像したことを友達と話し合うことで、より具体的なものにし、自分の台本に加筆していく。その後、想像したことを生かして声や動きで表現する。</p>	<p>中③～⑧【考え見てちょうだいシート】</p> <p>登場人物の行動について具体的に想像したことを付箋に書き、グループで1枚のシートに貼ることで、どの叙述を基に、どの観点について具体的に想像しているかを視覚的に捉えられるようにする。</p>
三	<p>⑨⑩ 音読劇の練習をしよう</p> <p>6場面を読んだ後、役割分担をして、音読劇の練習をする。</p> <p>⑪ 音読劇を発表しよう</p> <p>1年生に向けて音読劇を発表する。</p> <p>⑫ 『名前を見てちょうだい』の学習を振り返ろう</p> <p>1年生に見せた音読劇の動画を確認し、本単元の学習を振り返る。</p>	<p>後③～⑫【頑張り見てちょうだいカード】</p> <p>学習活動に基づいた観点で振り返ることで、学習の成果を正確に捉えられるようにする。</p>

5 本時の学習

<b>目標</b>	5 場面後半における登場人物の行動について、叙述を基に具体的に想像したことを、友達と交流することを通して、より具体的なものにすることができる。
-----------	---

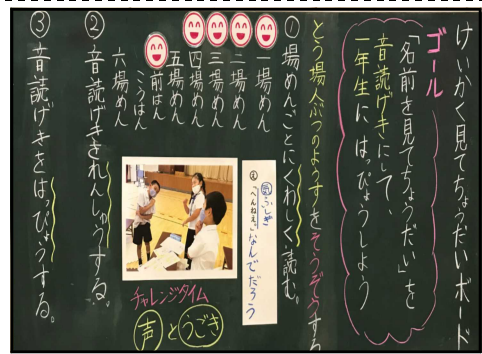
	学習活動	主な子供の意識
課題設定以前	1 学習課題を確認する。 【計画見てちょうだいボード】	<p>1 年生に向けて『名前を見てちょうだい』の音読劇を発表するぞ。</p> <p>登場人物の様子を想像しながら読むと、音読劇に生かせるんだね。</p> <p>前の時間は5場面の前半まで学習してきたよ。今日は、5場面の後半を登場人物の様子を想像しながら読んでいきたいな。</p>
	登場人物の様子を想像しながら5場面の後半を読もう	
課題解決中	2 登場人物の行動について具体的に想像する。 【考え見てちょうだいシート】	<p>登場人物の様子を想像する時は、どんな顔・声・動き・気持ちなのかを想像するといいんだね。</p> <p>『あたしのぼうしをかえしなさい』のときは、命令するみたいに強い言い方をしたと思うよ。お母さんに貰った大切な帽子を絶対に取り返したかったと思うからだよ。</p> <p>えっちゃんは、『あたしのぼうしをかえしなさい』の時に、とても怖い顔をしていたんじゃないかな。大男には負けたくないという強い気持ちが顔に表れていたと思うからだよ。</p>
	3 想像したことについて話し合う。 【考え見てちょうだいシート】 (1) グループ (2) 全体	<p>友達はどんな想像をしたのかな。</p> <p>その後の文で、大男が『ぶるっとみぶるい』しているということは、それぐらいえっちゃんが怖い顔で怒っていたということだね。他の文からも様子が想像できたよ。</p> <p>大切な帽子を絶対に取り返したいという気持ちが、顔だけじゃなくて声にも表れていたんだね。一つの文から、えっちゃんの様子が他にも想像できたよ。</p> <p>友達と話し合って、登場人物の様子をもっと詳しく想像することができたよ。「なるほど」と思ったことを自分の台本に書き加えておこう。</p>
	4 想像したことを声や動きで表現する。	<p>もっと詳しく想像できたことを生かして、登場人物の様子を声や動きで表現してみたいな。</p> <p>本当にえっちゃんが言っているみたいに、迫力のある読み方だったね。怒った気持ちを強い言い方で表現できていて、様子がよく分かったよ。</p> <p>睨みながら怒った顔で読んでいたね。絶対に帽子を取り返してやるぞという強い気持ちが、声や表情から伝わってきたよ。</p> <p>登場人物の様子を想像しながら読むと、声や動きが工夫できるね。</p>
	5 本時の学習を振り返る。 【頑張り見てちょうだいカード】	<p>だんだん登場人物の様子を詳しく想像することができるようになってきたよ。</p> <p>〇〇さんの考えを聞いて、えっちゃん顔や声、動き、気持ちをもっと詳しく想像することができたよ。</p> <p>1年生にも物語の様子がよく伝わる音読劇ができそうだね。</p>

<b>評価</b>	5 場面後半における登場人物の行動について、叙述を基に表情・口調・様子などの観点から具体的に想像したことについて友達と話し合い、より具体的に想像したことを台本に加筆している。 <span style="float: right;">【方法：記述・発言】</span>
-----------	--

6 働きかけの詳細

～課題設定以前～ **学習活動1** 【計画見てちょうだいボード】(③～⑩時間)

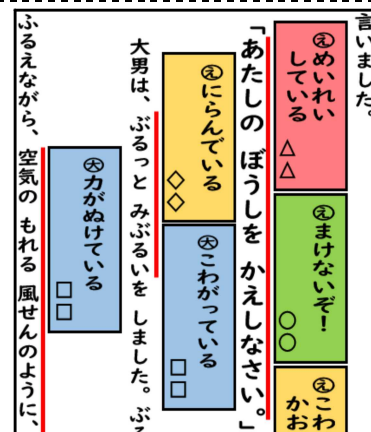
単元の導入で子供たちと一緒に立てた学習計画を「計画見てちょうだいボード」に示しておく。本時では、このボードを基にして、前時までの学習を振り返るとともに、『名前を見てちょうだい』を音読劇にして、1年生に発表する」という単元のゴールを確認できるようにする。また、想像したことを声や動きで表現している様子が分かる写真や加筆された台本の一部をボードに掲示しておくことで、登場人物の行動を具体的に想像しながら読み、音読劇に生かしてきた経験を想起させ、本時の学習課題の妥当性を感じられるようにする。



【計画見てちょうだいボード】

～課題解決中～ **学習活動2・3** 【考え見てちょうだいシート】(③～⑧時間) **学習活動4**

学習活動2では、叙述を基に、登場人物の行動を具体的に想像する。活動の前には、登場人物の行動を具体的に想像する際の観点を示した「想像のもと」を確認することで、登場人物の「顔(表情)・声(口調)・動き(したこと、様子)・気持ち」を想像していくという活動の見直しをもてるようにする。子供たちは、まず、自分の台本の中から、登場人物の行動を具体的に想像することができる叙述を見付け、赤線を引く。そして、想像したことを観点ごとに色分けした付箋に書き、根拠となる叙述の横に貼っておく。学習活動3では、3、4人のグループで1枚の拡大した台本「考え見てちょうだいシート」に付箋を貼り、想像したことについて話し合う。付箋を1枚のシートに集約することで、どの叙述を基に、どの観点について具体的に想像したかを視覚的に捉えられるよう

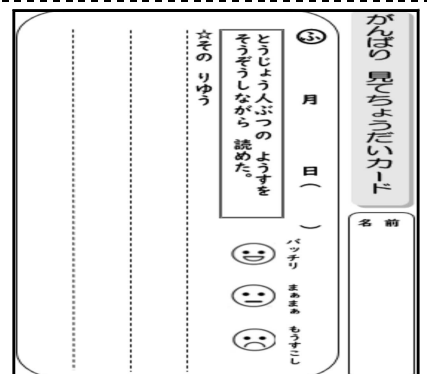


【考え見てちょうだいシート】

にし、友達の考えとの共通点や相違点に気付けるようにする。話し合いの前には、登場人物の行動について具体的に想像したことをより具体的なものにするために話し合うという活動の目的と、気になった付箋について「どうしてこう考えたの」と質問しながら考えの理由を伝え合うという活動の手順を確認する。子供たちは、話し合いを通して、一つの叙述から多様な想像ができることや、自分が意識していなかった叙述からも登場人物の行動を具体的に想像することができることに気付いていく。グループでの話し合いの後には、友達の考えの中で、それまで自分が想像できていなかったものを全体で表出させる。グループや全体での交流を経て、自分が「なるほど」と思った友達の考えを自分の台本に青色で加筆する場を設ける。加筆できたことを称賛することで、協働のよさを感じさせるとともに、自分の考えの広がりや深まりを視覚的に捉えられるようにする。学習活動4では、より具体的に想像したことを生かして、一番表現してみたい部分を声や動きで表現する。その後、他者評価の場を設けることで、具体的に想像したことが音読劇に生かしていることを実感できるようにする。

～課題解決後～ **学習活動5** 【頑張り見てちょうだいカード】(③～⑫時間)

振り返りの際に用いる、頑張り見てちょうだいカードには、「登場人物の様子を想像しながら読めたか」(③～⑧時間)、「想像したことを声や動きで表現できたか」(⑨～⑪時間)、『名前を見てちょうだい』の学習で、登場人物の様子を想像しながら読めるようになったか」(⑫時間)のように、学習活動に基づいた観点で振り返ることで、学習の成果を正確に捉えられるようにする。これらの観点について、三段階の表情の中から最も合うものに○を付けて自己評価できるようにする。また、自由記述の欄には、その評価にした理由を書かせて発表させることで、本時における学習の成果や協働のよさを共有する。



【頑張り見てちょうだいカード】